

## 平成27年度 第2回公立大学法人鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日 時 平成27年8月7日(金) 10:00～11:40
- 場 所 公立鳥取環境大学 大会議室(本部講義棟3階)
- 出席者 高橋一委員、河原正彦委員、三野徹委員、若原道昭委員、岡部哲彦委員  
渡邊良人委員、藤縄匡伸委員、吉田圭子委員 [8名/10名]  
葉狩弘一監事、松本美恵子監事[2名/2名]
- 欠席者 林田英樹委員、山田憲典委員

### 【議事】

- 1 前回議事要旨の確認  
原案のとおり了承。

- 2 審議事項

- (1) 平成26年度補正予算(第2回)について  
資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

- 3 報告事項

- (1) 近況報告

資料に基づき、在籍者状況、オープンキャンパスその他近況について報告があった。

主な意見・質疑は以下のとおり

<意見交換・質疑>

- ・公開講座について、参加者が固定客になり、あまり浸透していないところがあった。
- ・また倉吉でもあまり広まらなかったということがあったが、7月の倉吉市での講座では、地元商工会議所の支援もあり、多くの利用者に参加いただいた。
- ・オープンキャンパスについて、全国からこれだけの人数が集まるというのは驚きである。
- ・今はだいたいどの大学でもオープンキャンパスを行っており、どうしてもマンネリしがちであるが、環境大では学生募集活動が効率よく進んでいるのだと思う。  
→AO入試等、推薦入試希望の高校生が多いかと思う。将来的には一般入試の学生にも、参加してもらえるよう大学の認知度を上げていきたい。
- ・(アンケート)オープンキャンパスには来るが、大学を受験しないという回答は、どのようなことが考えられるか。  
→ネットの申し込みを保護者や学校の教師が行った場合が考えられる。

- (2) 平成28年度入試概要(大学院)について

資料に基づき、新大学院学生募集要項について説明があった。

- (3) 公立大学法人公立鳥取環境大学中期目標に係る中間評価について

資料に基づき、中間評価に係る報告書(案)について、その内容及び、教授会でも周知させる時間が必要だと判断したことから未定稿とした経緯について説明があった。

<質疑応答>

- ・県内就職希望者のうち、就職できていない者も多いか。

→78名の希望者中、51名は県内に就職できた。

ただ、なかなか県内企業と学生の希望がマッチしないという問題はある。

企業が欲している業種と学生の希望がなかなか難しい。

・企業側としては、学生自身のPR不足や、スキル不足という印象を受ける。

・就職できていない7%の学生はどうなったか。

→昨年度卒業生の12人が就職決まらず、そのうち3名が、就職活動はするものの決まらず、9人は就職したいがなかなか行動に移せない者もいたようだ。

・教員一人当たりの学生数について、本学は中国5県の中で一番学生数が多いのに、教員数は減少傾向にある。教育の質を確保することに支障はないか。

→環境情報学部の募集停止に伴う教員の退職に伴う、教員数の減少が伺える。

・国公立大学のなかでは、教員一人当たりの学生数が多いので、対策が必要かと思う。

→本学としても問題視しており、是正したいと考えている。

・保護者会とは、どのような組織か。

組織では無く懇談会であれば、大学外に、大学側から出かけて行って開催する、ということもできるので考えてみてはいかがか。

→保護者に大学に来ていただき、教員と話をする懇談会のようなものであり、組織ではない。

H26～25年の保護者会は環境情報学部の学生対象に行った。

・保護者に対して、お知らせのようなものは発行しているか。

→「環大レポート」という発行物を年に1回発送している。

成績は、年に2回、全保護者に通知を行っている。

・保護者が見たか、見ないかは確認しているか。

→入学式の時、保護者ガイダンスで案内し、発送時期も考慮している。

・広報活動について、大学に関する新聞記事等が出る場合、関係者に対しメール等で記事が出る旨教えて頂ければと思う。独自にPRすることもできるため。

・また、公開講座の際、小さくてもいいので「主催者名、講義の名前」等を張り出してはいかがか。環境大学の主催であることをもっとアピールできるようになるので検討してほしい。

→善処する。

#### 4 その他

学長から、カリキュラム改革について今後の見通し等、説明があった。